

## 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」が 4 月に市内小・中学校 17 校で実施されました。安曇野市教育委員会では今後の教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と学力向上検討委員会を組織し、結果を分析しましたので、その概要を報告します。

### 調査の概要

- 調査の名称 平成 29 年度全国学力・学習状況調査
- 実施日 平成 29 年 4 月 18 日(火)
- 実施学年 小学校 6 年生(10 校、834 人)、中学校 3 年生(7 校、913 人)
- 調査の内容
  - ①教科に関する調査(国語、算数・数学)
    - (ア)主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
    - (イ)主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕
  - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### <平均正答率の概要>

#### 【全国・県の平均正答率に対する比較の目安】

記号	意味	正答率差
☆☆☆	(大きく上回っている)	4.0 以上
☆☆	(上回っている)	2.0~3.9
☆	(少し上回っている)	1.0~1.9
○	(ほぼ同じ)	±0.1~±0.9
▽	(少し下回っている)	-1.0~-1.9
▽▽	(下回っている)	-2.0~-3.9
▽▽▽	(大きく下回っている)	-4.0 以下

#### 「☆☆☆(大きく上回っている)」とは・・・

教科に関する調査の結果について、次表では、「☆」「○」「▽」などの記号を用いて表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの意味があります。たとえば、全国の正答率が 80.0、市の正答率が 84.0 だった場合、正答率差が 4.0 以上となり、「記号・・・☆☆☆、意味・・・大きく上回っている」となります。

【小学校 国語A】

内 容	全国との比較	県との比較
国語A全体	☆	☆
話すこと・聞くこと	☆☆	☆☆
書くこと	▽	○
読むこと	☆☆	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆

【小学校 国語B】

内 容	全国との比較	県との比較
国語B全体	○	○
話すこと・聞くこと	☆	☆
書くこと	☆	☆
読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		

【小学校 算数A】

内 容	全国との比較	県との比較
算数A全体	○	○
数と計算	○	○
量と測定	○	☆
図形	☆	○
数量計算	○	○

【小学校 算数B】

内 容	全国との比較	県との比較
算数B全体	○	○
数と計算	○	○
量と測定	☆☆	○
図形	▽▽▽	▽
数量計算	○	○

【中学校 国語A】

内 容	全国との比較	県との比較
国語A全体	☆	☆
話すこと・聞くこと	○	○
書くこと	☆	○
読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆

【中学校 国語B】

内 容	全国との比較	県との比較
国語B全体	☆☆	☆☆
話すこと・聞くこと	☆☆	☆☆
書くこと	☆☆	☆☆
読むこと	○	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	☆☆

【中学校 数学A】

内 容	全国との比較	県との比較
数学A全体	☆	☆
数と式	☆☆	☆☆
図形	○	○
関数	☆☆	☆☆
資料の活用	▽	○

【中学校 数学B】

内 容	全国との比較	県との比較
数学B全体	○	○
数と式	○	☆
図形	▽	○
関数	☆☆	☆☆
資料の活用	☆☆	▽

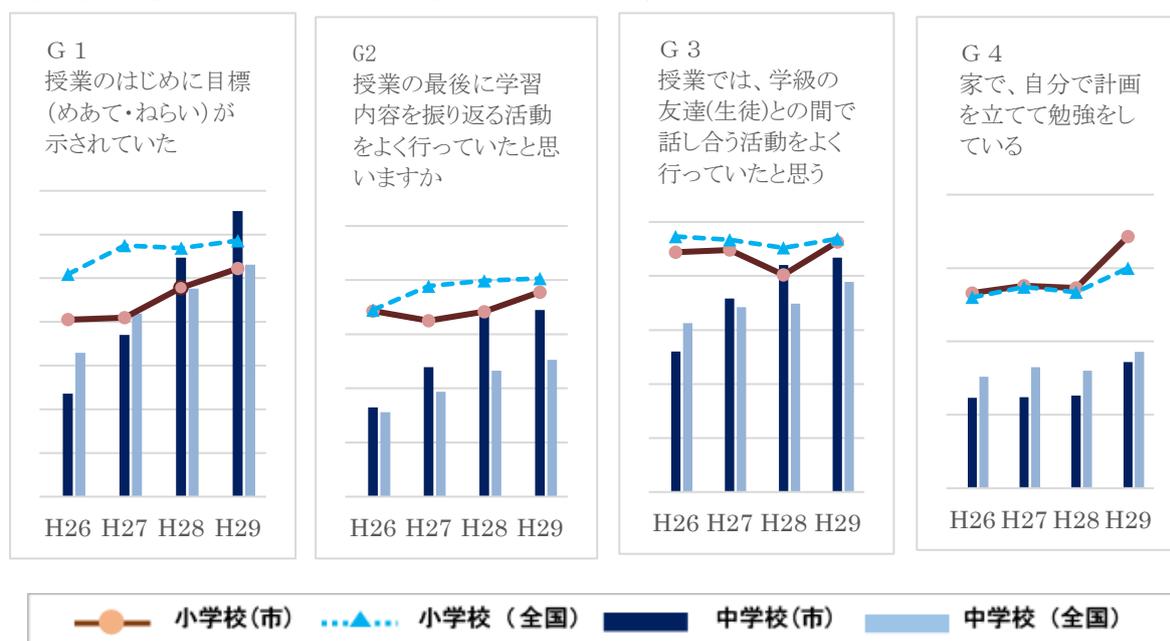
## 国語や算数・数学の学力状況

### ● 傾向と課題

各教科調査全体の平均正答率をみると、小学校では昨年度、算数で全国や県の平均を下回りましたが、今年度はほぼ同じという結果になりました。国語Aは全国や県の平均を少し上回り、国語Bはほぼ同じです。また、中学校では、昨年度から全国や県の平均を「少し下回る」から「上回る」に転じた国語Bは、今年度も良好でした。他領域の全体結果も知識に関する国語A・数学Aで少し上回り、数学Bで全国や県の平均とほぼ同じという結果になりました。一方、小学校「割合の使われた文章問題」の解法、中学校数学の「資料の活用」領域の定着に課題がみられました。

また、「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」において力点を置いている児童生徒質問紙の各設問についての回答状況は、過去の最大値を示した項目が多くあり、「課題の明確化」、「主体的・対話的で深い学び」、「自分で計画を立てた家庭学習」などの面で授業改善が進んでいる様子が見えます。

昨年度、学習意欲や粘り強さの減少傾向がみられるのではと懸念された設問の「算数・数学の全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた小学生は、本年度は若干の上昇があり、一定の歯止めがかかった状況ともみられますが、全体には下降傾向であり、「家で学校の宿題をしている」と答えた児童の割合の減少や全国比も併せて考えると依然として大きな課題であることに変わりはありません。ただ、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童の割合は年々増加しており、「家庭学習のすすめ」で提案している「自主的な家庭学習をめざして」について改善の努力が続けられている様子も感じられます。



### 【小学校の傾向と課題】

国語では、話す・聞く能力、及び、言語についての知識・理解・技能については、

おおむね身に付いていると思われます。しかし、書く能力について問う設問では、正答率が低い結果となっています。また、「自分の考えを広めたり深めたりするための発言の意図を捉える」ことを問う設問でも正答率が低い結果となり、読む能力にも課題がみられました。観点を明確にした上で、具体的な事実と自分の意見や考えを区別しながら必要な内容を整理して書けるように指導することや、物語を読んで、具体的な叙述を基に感想を伝え合ったり自分の考えをまとめたりできるように指導することが必要であると思われます。

算数では、すべての領域で全国や県の平均を下回った昨年度に比べると、今年度は改善が見られ、全国や県の平均とほぼ同じ結果となりました。中でも、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」ことを問う設問や、「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる」ことを問う設問は、全国や県の平均を大きく上回る結果となり、定着の高さがうかがえます。一方、記述式問題の無答率は、昨年度より改善したものの、全国や県の平均と比べ高い傾向にあり、理由や説明を記述する力は課題と言えます。思考の過程や結果を言葉や式を用いて表すことの指導の充実が求められています。

### 【中学校の傾向と課題】

国語では、各領域とも、基礎的な知識・理解や技能などはおおむね定着していると思われます。特に言語についての知識・理解・技能に関する問題の平均正答率は全国の平均正答率を上回っており、家庭学習を含めた言語に関する学習の成果が現れていると思われます。しかし、「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ」ことを問う設問では、正答率が低い結果となりました。筆者の考えなどの中心的な部分と読み手の理解を補うために示された事例などの付加的な部分とを読み分け、内容を理解することが必要です。

数学では、「関数」の領域は、A問題、B問題ともに全国、県の平均正答率を上回る結果となりました。しかし、「資料の活用」の領域は、A問題は国の、B問題は県の平均正答率を下回る結果となりました。また、用語の意味を問う設問の正答率が低い結果となりました。特に、数学的な表現を用いて説明することを問う設問は、正答率よりも無回答率が高いという結果となりました。自分の考えをまとめる際、数や記号、式、図、表を正しく用いたり、根拠を明らかにして筋道を立てたりすることへの指導がさらに必要だと思われます。

## 生活環境や学習状況

### ● 傾向と課題

小学校・中学校ともに生活環境や学習状況について回答する児童生徒質問紙の幾つかの項目で、全国平均や県の平均と比べてよい傾向がみられました。中でも「友達と

の約束を守っている」「学校のきまり(規則)を守っている」「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」「今住んでいる地域の行事に参加している」などは、今後も大切にしていきたい安曇野市の児童生徒のよい傾向です。また、朝食を毎日食べることや起床就寝の時間を一定させることも例年同様よい傾向がみられます。

### 【小学校の傾向と課題】

基本的な生活習慣が定着しており、地域・家庭・学校それぞれの場面で誠実に関わろうとするよさがあります。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「友達との約束を守っている」の数値は全国や県の平均に比べて高く、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」等の回答からは学校生活の充実ぶりがうかがえます。

一方、「国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えた児童の割合は、全国や県の平均と比べると低く、学習と生活との関連が薄い傾向にあることが感じられます。授業における「めあて・ねらいの明確化」「主体的・対話的で深い学びへの転換」「振り返り活動の充実」と同様、日々の授業の中で大切に考えたい着眼点です。

他に経年変化を注視している設問の一つ「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」については、全国や県の平均より使用時間が短い傾向が本年度もみられました。「携帯やスマートフォンをもっていない」割合も全国や県の平均を上回っているものの「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた児童の割合が低いことは課題です。学校や家庭が連携してインターネットのマナーや留意点、使用上の約束を確認する必要があります。

### 【中学校の傾向と課題】

「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」「人が困っているときは、進んで助けている」「新聞を読んでいる」の割合は、全国や県の平均に比べて高く、社会や人との関わりを大切にしようとしている様子が見えられます。

「家で学校の宿題をしている」割合は、昨年度に引続き全国や県の平均を大きく上回りました。しかし、「家で、学校の授業の予習をしている」と答えた生徒の割合は年々増加しているものの全国平均を大きく下回っています。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と答えた生徒の割合は、横ばい状態でこちらも全国平均を下回っており、家庭学習の内容や方法については引き続き改善の取組が必要であると思われます。昨年同様、日々の授業において「めあて・

ねらいの明確化」「主体的・対話的で深い学びへの転換」「振り返り活動の充実」に関わる設問に対する回答は、全国や県の平均を大きく上回り、この点についての改善は定着してきているように思われます。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」では、2時間以上使用している生徒の割合は全国平均より低いものの、使用時間の長い生徒は年々増加化傾向にあります。「普段(月～金曜日)、1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間」は、昨年同様、県平均とほぼ同じで、全国平均より短い傾向があります。「携帯電話やスマートフォンをもっていない」割合は全国や県の平均を上回っています。小学校同様「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した生徒の割合が低く、携帯電話やスマートフォンの使い方については、危惧される様々な状況を想定しながら、指導をしていく必要があります。

### **調査の今後の活用**

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

#### **市教育委員会**

- ① 全国学力・学習状況調査の分析からみえてくる児童生徒や学校の評価や課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。「学力・体力向上4カ年計画」の各校への定着を進め、指導主事の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- ② 基本的な生活習慣や家庭学習の一層の定着を図るために、市校長会・市教育会・市PTA連合会と協働で作成した「家庭学習のすすめ」の理解と活用を進めていきます。
- ③ 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小・中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
- ④ 市費加配教員(市費により、教員の標準定数に加えて配置された教員)が個に応じた学習や指導方法の改善、学習効果を高めるために活かされるように、市校長会とともに配置について検討していきます。

#### **各校は**

- ① 基本的な学校での学習や生活の習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また様々な機会を通して家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- ② 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改

善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。

- ③ 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に生かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
- (ア) 有意に落ちている又は伸びている問題の分析をする。
  - (イ) 回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の分析をする。
  - (ウ) 必要な補充・補完を計画し実施する。
  - (エ) 当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題にするために、Q-UやCRTなどの調査や学力検査と関連付けて分析する。
  - (オ) 「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」、「家庭学習のすすめ」や各校の「家庭学習の手引き」の観点からも分析する。
- ④ 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」からみえてくる評価や課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。

### **比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子**

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において「している」「当てはまる」「そう思う」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

#### **【小・中共通】**

- ◇毎日、同じくらいの時刻に起きている
- ◇普段(月～金曜日)、1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短い(0～1時間)
- ◇家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る
- ◇算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
- ◇授業では自分の考えを発表する機会が与えられていた

#### **【小学校の例】**

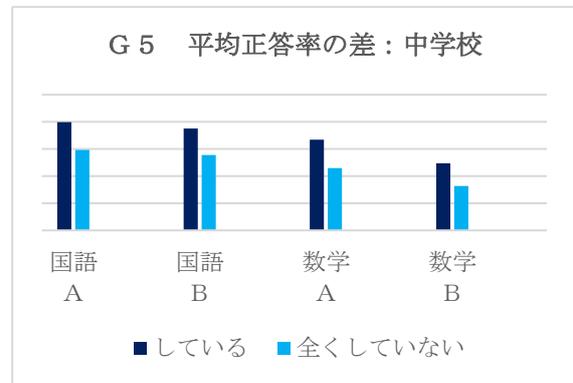
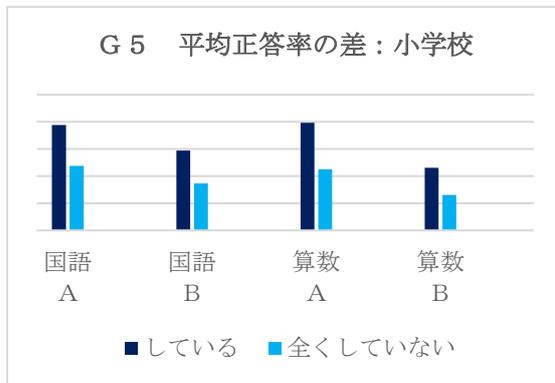
- ◇家で、学校の宿題をしている
- ◇今住んでいる地域の行事に参加している
- ◇ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ◇学校のきまりを守っている
- ◇国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- ◇学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある

#### **【中学校の例】**

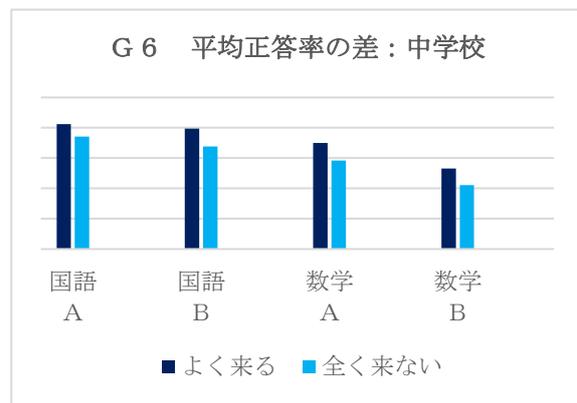
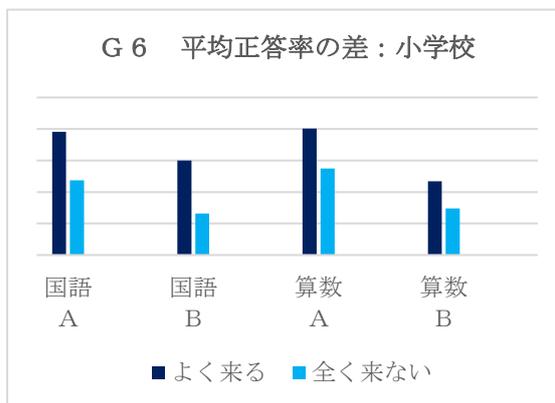
- ◇難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している
- ◇友達に会うのは楽しい
- ◇好きな授業がある
- ◇自分には、よいところがある

- ◇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる
- ◇先生は、あなたのよいところを認めてくれている

**G 5 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」**



**G 6 家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか**



**G 7 月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか**

